



学会ホームページ <http://jasce.jp>

017号(2013年11月6日)

目次

- 北海道大会迫る！
協同学習ワークショップ(ベーシック)を開催
日本協同教育学会研修部主催：
水谷茂の協同学習実践講座
『協同と教育』10号の投稿締切迫る
出版情報
各地の勉強会・研究会の報告

北海道大会迫る！

11月29日～12月1日、いよいよ今年のJASCE最大のイベント、北海道大会が開かれます。プログラムはホームページ(下記)で確認できます。ワークショップの準備などありますので、ぜひ事前申し込みをお願いします。

11月29日はプレ大会です。札幌市立西宮の沢小学校で公開授業と検討会、協同学習入門ワークショップが開催されます。西宮の沢小学校実践の特色は「みる」をキーワードにした授業づくり・学校づくりにあります。プレ大会はFAXによる参加申し込みが必要です。

<http://wiki.jasce.jp/wiki.cgi/taikai2013>

協同学習ワークショップ(ベーシック)を開催

8月24日(土)、25日(日)の両日、協同学習ワークショップ<ベーシック>が南山大学(名古屋)で開催され、全国から36名の方の参加がありました(主催：南山大学人間関係研究センター)。講師は、長濱文与先生(三重大学)と石田



裕久(南山大学)が担当しました。参加された方々からは、「協同学習のイメージがはっきりした」「すべての土台は一人ひとりが大事にされることだと気づいた」「授業をする楽しみ、ワクワク感をいただきました」などの感想が寄せられています。なお、アドバンスは関田一彦先生(創価大学)を迎えて11月16日・17日に開催予定です。(石田裕久 記)

日本協同教育学会研修部主催： 水谷茂の協同学習実践講座

今年度、協同学習を実践してきたベテランから、「協同の学びづくりのヒント」を受け取る講座として企画しました。

中京大学を会場に、10月の土曜日を3回使った連続講座になりました。まだ試行的な試みですが、中身はとても魅力的な内容でした。延べ40数名の方々が集いました。

当日は、現在も研究的実践の視点から挑戦的な授業づくりに取り組んでいる講師の水谷茂先生のソフトな語り、そして的確なリードと参加者の熱心に学びを探る活動が絡み合って意欲的で有意義な時間となりました。

<内容>

- 第1回(10月12日) 参加者19名
 - 単元見通し学習による俳句の授業
 - 協同学習をどう創るか事例紹介(6年算数「分数のかけ算」の授業)と意見交換
- 第2回(10月19日) 参加者13名
 - 小2道徳と中3英語授業のDVDの視聴と「学び」についての意見交換
- 第3回(10月26日) 参加者10名
 - 小6国語と中1数学の少人数授業のDVDの視聴と「学び」についての意見交換
 - 実践講座のまとめ：杉江修治先生(中京大学教授)による講話

<講座の一コマ>

- 単元見通し学習による俳句の授業
- ① 五音カードと七音カードを組み合わせて名句を再現する(グループ活動)
- ② 名句の鑑賞を交流する(ジグソー法による交流)
- ③ 五音・七音を交流しながら、自分の俳句にぴったりくる言葉をさがす(全体交流)
- ④ 俳句を創作する(全体交流とグループ活動)

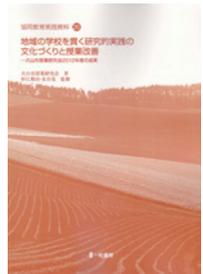


『協同と教育』10号の投稿締切迫る

投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常、数ヶ月を要します。学会機関誌『協同と教育』第10号(2014年発行)の投稿締切が11月末に設定されていますので、今月中の投稿を目指してください。原稿の書式など詳しい投稿規程はホームページをご覧ください(<http://jasce.jp/1091format.html>)。

出版情報 [協同教育実践資料 20]

犬山市授業研究会の2012年度の成果をまとめた実践集です。10のグループが、小中学校、各教科・領域にわたるそれぞれのテーマにそって実践づくりをし、多くの実践報告をまとめています。1年間の協議の成果、アイデアが満載です。入手ご希望の方は一粒書房(page1@itsubu.com)にお問い合わせください。



各地の勉強会・研究会の報告<名古屋・東海方面> 名古屋・協同の学びをつくる研究会

●8月例会

8月21日(水)午後7時から名古屋大学で開催しました。

テーマ:「シンガポール日本人学校の教育が目指すべき方向性を探る」

報告者: 杉山智哉 教諭(シンガポール日本人学校)

内容: シンガポール日本人学校(小学校)の紹介、日本との環境の違い、シンガポールでの日本人児童の生活や、日本人学校での学び合いの授業に向けての取り組みなど幅広くご報告いただきました。日本人学校における諸課題は、まさに日本の教育の縮図でした。

●10月例会

10月11日(金)午後7時から名古屋大学で開催しました。

テーマ:「物理を問題解決型の集団思考で理解する試み—教育困難高校における物理基礎—」

報告者: 中村陽明 教諭(理科)(三重県立桑名北高等学校)

内容: どのようにして生徒たちに物理に興味を持たせ、理解をさせるか。中村先生は昨年、「ゆるやかな」コの字型座席で問題演習を行う試みを行い、今年度の途中から4人1組のグループでの問題演習に変更しました。コの字座席よりグループ座席の方がよいという生徒が全体の8割を占め、「コの字」「グループ」それぞれの利点と弱点が見えてきました。「コの字型座席」から「グループ学習」に変えたことによる学力の向上は顕著ではありませんでしたが、遅刻率、問題行動数、成績不振者数のすべてが減少しました。グループダイナミクスの効果があったと思われる結果でした。



10月例会で報告する中村先生

●次回の予定

11月15日(金)午後7時から名古屋大学で開催します。

テーマ:「共同教材解釈による授業実践の可能性と課題—小2国語科『スーホの白い馬』を通して—」

発表者: 近藤茂明 教諭(愛知県知多郡東浦町立片葩小学校)

授業者: 同小学校 松本理恵子 教諭

内容: 6月例会では、校内研修として『ごんぎつね』の「共同教材解釈」に全職員が取り組んだ後で、初任者が行った研究授業を分析しました。その議論のなかで文学教材における「規格化された味わい」をどう考えるかが新たな課題になりました。11月例会では『スーホの白い馬』を気鋭の先生が授業された記録をもとに、この課題から見える可能性についての議論を深めたいと思います。みなさまのご参加をお待ちしています。

ご連絡は水野正朗まで。

(mizunokita@yahoo.co.jp)

各地の勉強会・研究会の報告<福岡・九州方面> 授業づくり研究会

●第19回「授業づくり研究会」開催

日時: 10月19日(土) 午後1時~午後5時まで

場所: 久留米大学御井キャンパス 学生会館ミーティング=ルーム3

参加者: 31名の皆さんにお集まりいただきました。皆さんに感謝申し上げます。

(1) 挨拶・導入

研究会への導入と、協同学習に関する最近の動向および関連する書籍を紹介しました。

(2) 石山信幸教諭(南筑高等学校)

題目: 協同学習導入に対する高校生の認識と過去経験との関係: 高校1年生に対する質問紙調査から

内容: 協同学習を導入する際、グループ活動に対する生徒の認識が問題となります。本研究では、入学直後の1学期間、

数学を中心に協同学習を導入した授業を体験した高校1年生に対して、小・中・高で経験したグループ学習の異同や、グループ学習による変化などを問う調査を実施し、グループ学習に対する認識を探索的に検討した内容が報告されました。同時に、南筑高等学校における協同学習の取り組みと、これまでの経緯が報告されました。

発表は、参加者の興味関心を駆り立てる内容でした。参加者から「すべての発言に実践が入っていて説得力がとてもありました」という、高い評価をいただきました。

(3) 安永 悟(久留米大学)

題目: 協同学習に基づく初年次教育: 教養演習Iを中心に

内容: 久留米大学の心理学科では協同学習に基づく初年次教育を展開してい

ます。予定では「教養演習I」を中心に報告するように計画していました。しかし、時間の都合上、その前段となる「新入生歓迎プログラム」までの報告となりました。続きは、次回に報告する予定です。

(4) 協同カフェ

甲原定房先生(山口県立大学)の指導のもと、協同カフェを行いました。時間は30分程度と短かったのですが、参加者全員が自分の取り組んでいる内容や、検討したい内容を話題として提供しながら、思い思いに交流することができました。

●次回の予定

日時: 12月7日(土)13時~17時まで

場所: 久留米大学御井キャンパス 学生会館3階ミーティング=ルーム3

ご連絡は安永悟まで。

(yasunaga_satoru@kurume-u.ac.jp)